

## 「防災」が変わる。「防災」を変える！

今回は、5月31日東京日本消防会館で開催された「防災啓発中央研修会」講演の中で、私が強く心を打たれたお話です。東京大学大学院情報学環教授・片田敏孝先生のお話を紹介させていただきます。演題は『荒ぶる自然災害に向かい合うこれからの地域防災を考える』。皆さんはこの演題だけで「何か難しそうな話だなあ」と思われるかも知れません。でも片田先生のお話、気が付けば90分聞き入ってしまい、心を引き付けられた摩訶不思議な講演でした。片田先生といえば、津波避難・ハザードマップのパイオニアです。東日本大震災時にクローズアップされた『釜石の奇跡』といわれた釜石の住民避難をつくり上げたといっても過言ではない片田敏孝先生のお話しをご紹介します。

東日本大震災の時、家族や知人を助けにいった多くの方が津波の犠牲となり、一方首都圏では家族の安否を確認しようとわが家を目指し、およそ500万人が帰宅困難となった。なぜ私たちは命の危険を顧みず、このような行動をとってしまうのか？

そこには『人は人として逃げられない』がある。

例えば東日本大震災の時に、高台まで若者が駆け上がってきておじいちゃんを探す。おじいちゃんがない。すると若者は、おじいちゃんを連れに行こうとする。もちろん、みんなが止める。『津波でんでんこだ』といってみんなが止める。けれども放っておいたらおじいちゃんは死んでしまうと思うと彼は行ってしまふ。そして戻ってこない。

また、あるお母さんはさっきまで子どもがここで遊んでいたといっ、懸命に子どもを探す。お母さんは津波が来ると判っているが、だからこそ見当たらない子どもを探して、津波に飲まれていった。

こういう事例を考えると、僕は「人は人として逃げられない」と思う。

この人たちは、決して防災意識が低かったわけでもなく、知識が無かったわけでもない。けれども人は自分の命が本当に危ういと思うような事態が起きた時に思うことは、自分の命ではないと思う。大事な人のことを思い、人は人として、その行動を優先してしまう。

そうすると防災施設を作ること大事だし、堤防を作ること大事、情報をしっかり伝えることも大事、だけれども、この「人は人として逃げられない」という部分をどう理解しておくのかということが僕は防災のポイントだろうと思う。

また、東日本大震災のときに首都圏では帰宅難民問題というのが発生した。当たり前だと思う。東京の都心にいても大きく揺れた。ひょっとしたら自分の命が、と思わざるを得ない状況に置かれたときに、皆さん思ったことは、うちの子どもは大丈夫だろうか、家族は大丈夫だろうか、ということ。それが情報としてどうしても伝わってこない、安否が確認できないということになったら、自分の命が危うい状況になったからこそ、家族の元に行きたいと考える。

やはりそう考えると防災というのは、もちろん物理的に災害を排除することももちろん大事だが、それ以前に大事なことがもっとある。岩手県釜石では子どもたちが必至に逃げた。それは「自分が逃げれば、お母さんが逃げてくれる」と思ったからです。子どもたちは今のままでは、自分がいるところにお母さんが迎えにきちゃう、そうしたらお母さんの命が危ない、どうしたらいいのかわ。それは、僕がちゃんと逃げる子になっていればいいんだ。何の心配も与えないほど、僕がちゃんと逃げる子だと、お父さんお母さんが信じてくれていたら、お父さんお母さんも絶対に逃げるだろう。だから大震災の時、子どもたちは必至で逃げた。お父さんお母さんもうちの子は逃げていると信じよう、あの子たちのためにも死んではいけないと思って逃げた。

やはり防災とは、人の心の問題、家族の絆の問題、自分の命は決して自分だけの命ではないということ。そこをしっかりと災害に向かいあっても大丈夫なような家庭を築いておくことのほうが大事なんじゃないかと私は思うのです。(片田敏孝先生談)

この講演を拝聴し『信頼』という大きなキーワードが防災にはあるのだと再確認した。家族も地域もこの信頼の上に成り立たなければ、先の見えないものになる。逆に信頼できないなら、その人は『自分自身も信頼していない』そのような行動をとっているのでしょう。私は今後も家族を信頼し、地域やチームを信頼する。このようなグリーンシティづくりをお手伝いしたいと心から感じた一日となりました。

シリーズ：心を動かした名曲をご紹介します。

『Lemon』（米津玄師）2018/3リリース

♪夢ならばどれほどよかったでしょう 未だにあなたのことを夢にみる 忘れた物を取りに帰るように 古びた思い出の埃を払う 戻らない幸せがあることを 最後あなたに教えてくれた 言えずに隠してた昏い過去も あなたがいなきゃ永遠に昏いまま きっともうこれ以上 傷つくことなど ありはしないとわかっている あの日の悲しみさえ あの日の苦しきさえ そのすべてを愛してた あなたとともに 胸に残り離れない 苦いレモンの匂い ♪♪♪

